

## 鈴木治行プロフィール

東京出身。1990年、作曲家グループTempus Novum結成。1995年『二重の鍵』が第16回入野賞受賞。2005年ガウデアムス音楽週間、2006年イタリアのサンタマリア・ヌオヴァ音楽祭、2009年ニューヨーク「Experimental Intermedia」、2016年ニューヨーク「Music From Japan」参加など、作品は国内外で演奏、放送されている。90年代以降、反復もの、句読点、語りもの、伸縮ものなどの複数の路線を往還しながら作曲を続けている。他ジャンルとのコラボレーションにも関心を持ち、映像との仕事として『M/OTHER』他多数。またサイレント映画ライブ演奏も行う。美術、演劇寄りの仕事として、『循環する日常生活』、(1996年、六本木ストライプハウス美術館)、『饗宴のあと〜After The Symposium』(2015年、東京都庭園美術館)など。

### 間部令子(フルート)

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業後、渡米。カリフォルニア芸術大学(CalArts)音楽学部修士課程を経て、カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)音楽学部博士課程現代音楽演奏学科修了。博士論文は『無声音を伴うフルート演奏の手引き』。ジェームス・テニー、ロージャー・レイノルズなど著名な作曲家のソロ作品初演のほか、新鋭作曲家の作品紹介にも努め、演奏録音がヨーロッパ各地の音楽祭や音楽教育機関で取り上げられる。2006年競楽VII優勝、第16回朝日現代音楽賞受賞。

### 岩瀬龍太(クラリネット)

桐朋学園大学卒業後、ベルギーのアントワープ王立音楽院とモンス王立音楽院にて、ワルター・ブイケンス、ロナルド・ヴァン・スバンドク の両氏に師事。これまでに、ピエトロ・アルジェント国際室内楽コンクール第1位。マルコ・フィオリンド国際室内楽コンクール第3位。パドヴァ国際室内楽コンクール第3位。夏期国際音楽アカデミー(ウィーン)においてバルトク賞を受賞。ウィーンモデルン現代音楽祭をはじめ数々の音楽祭に招聘。

### 亀井庸州(ヴァイオリン・ヴィオラ)

5歳からヴァイオリン、11歳より尺八を始める。2000年ごろよりヴァイオリンを使って同世代の作家たちと新たな音楽を創作する活動を始め、2005年よりベルギー、リエージュ王立音楽院へ留学、20世紀の主要な作品を勉強する。同時に、古楽器を使ったピリオド演奏にも取り組み、古楽と現代音楽の両方を学ぶ。

2007年より日本に帰国。

湯浅譲二氏の個展を契機に、チェリストの多井智紀氏らと弦楽四重奏や多くの室内楽での活動を始める。

現在は主に古典尺八楽と、ヴァイオリンでの現代の作品初演の二つを軸に演奏を続けている。

### 細井唯(チェロ)

東京音楽大学弦楽科を首席で卒業。

在学中に給費奨学金を得る。

卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。

プロジェクトQ第10章、ピョラスペース2013ヒンデミット弦楽四重奏曲全曲演奏会、プロジェクトQ第11章、JTが育てるアンサンブルシリーズ、北九州国際音楽祭、等に出演。

ウェン=シン・ヤン、ダヴィド・ゲリンガス、グスタフ・リヴィニウス、中木健二、フランソワ・サルク各氏のマスタークラスを受講。

### 山田岳(ギター)

ギターを中心に様々な撥弦楽器の演奏を得意とし、古楽から前衛まで時代にとらわれない幅広いレパートリーを持つ。国内での活動のほか、これまでにドイツ、ベルギー、中国、マレーシア、シンガポール、ベトナムの各都市に招かれ公演。

2017年、ALM Recordsより初のソロアルバム「Ostinati」をリリース。「レコード芸術」誌にて特選盤に選ばれる。

第9回現代音楽演奏コンクール「競楽IX」第1位。第20回朝日現代音楽賞を受賞。

### 川村恵里佳(ピアノ)

東京音楽大学器楽専攻(ピアノ演奏家コース)卒業、同大学院修士課程器楽専攻鍵盤楽器研究領域(伴奏)修了。在学中、レインボウ21・サントリーホールデビューコンサートに出演。第11回現代音楽演奏コンクール「競楽XI」にて、審査委員特別奨励賞を受賞。現代音楽の演奏に積極的に取り組み、新曲初演を含む数々のプロジェクトに参加する。ハニャン現代音楽祭(韓国・ソウル)、ウィーンモデルン音楽祭に招聘される。東京音楽大学非常勤研究員。



## WINDS CAFE 254

WINDS CAFE とは、1997年1月から、川村龍俊が、音楽を中心に美術演劇映画などさまざまなジャンルの方々に企画していただきながら続けている、イベント+パーティーです。いわゆる「オフ会」ではありません。ご来場にあたって予約は必要ありません。基本的に入場料は無料、出入り自由で、パーティーでの飲食は参加者のみなさまからの差し入れを期待しております。

WINDS CAFE のコンセプトは、「好きなことやものを楽しんでいる人と一緒にいるのはなんて楽しいことだろう」です。出演を依頼するときには、このコンセプトを共有していただけることが条件になっています。」